

21世紀文明研究セミナー

現代美術家の回顧展について～東山嘉事展の場合

2009年2月4日（水）

服部正（兵庫県立美術館学芸員）

はじめに

美術館の展覧会の種類について

東山嘉事について

- ・略歴
- ・活動の特徴

今回の展覧会の動機

- ・展覧会の必要性
- ・東山嘉事と障害者アート

展覧会の組み立てまで

- ・作品と作家の全体像の把握

タム・タム芸術集団と東山嘉事

芸術家・東山嘉事の特徴

- ・具象的表現
- ・ユーモア感覚
- ・社会に対する旺盛な批判精神

個展を構成するとは

おわりに

- ・本展覧会の意義
- ・美術館の役割とは

質疑応答、ディスカッション



2008年度コレクション展Ⅲ

# 東山嘉事

ヒガシヤマ カジ

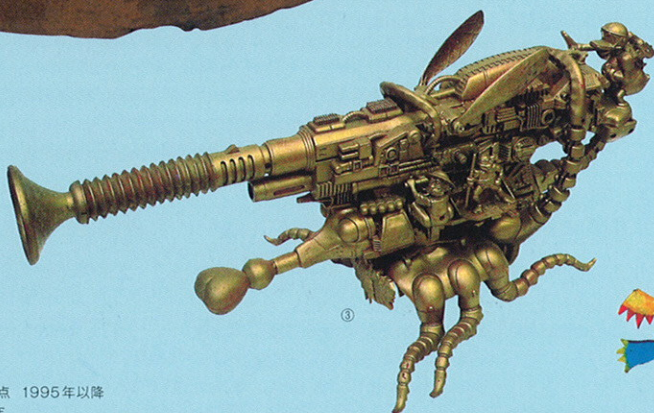
風刺とユーモア！カジさんの不夢不無ワールドへようこそ

平成20年11月22日「土」—平成21年3月15日「巨」

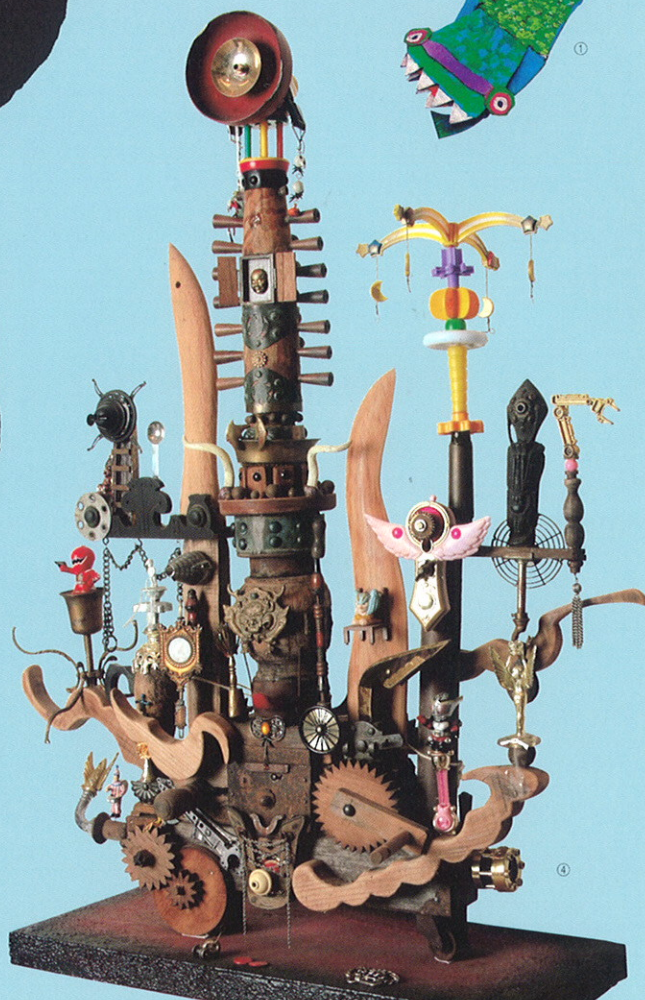
協賛 財団法人みなと銀行文化振興財団

2月21日(土)午後2時より

座談会「カジさんの思い出を語る」開催！



- ①「フム・フム」シリーズより6点 1995年以降
- ②《生体-螺旋》より 1992年
- ③「芸術防衛隊」シリーズより 2002年頃
- ④《題名不詳》2004年以前
- ⑤「曼陀羅を喰う」より 1994-99年頃



兵庫県立美術館  
HYOGO PREFECTURAL MUSEUM OF ART

神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1 (HAT神戸内)  
TEL: 078-262-0901 (代)  
<http://www.artm.pref.hyogo.jp>

KAJI HIGASHIYAMA RETROSPECTIVE

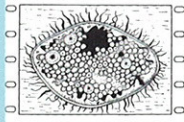
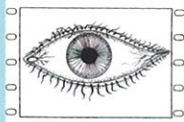
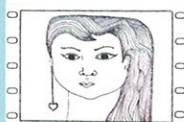




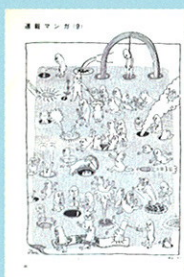
a. 1955年「東山嘉事洋画展覧会」(三田市公民館)会場にて



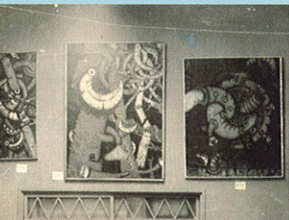
b. 1956年「ガン・グループ」第1回展会場にて(左が東山嘉事、右は大森長太郎)



e. 1962年「フィルム・ボエムNo1 アンソロジー」より



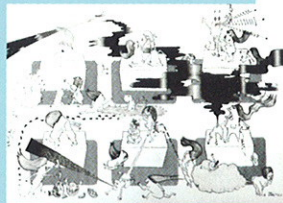
g. 1968年連載漫画「ウォー」第9回(「中美」第161号)



c. 1957年 白鳳画廊での個展風景



f. 1962年 大江健三郎と対談



i. 1972年《フム・フムの園》「第2回兵庫県美術祭」出品作



h. 1968年「中央美術協会展」(大阪画廊)会場にて



j. 1974年《聖なる人》個展「東山カジ王国フム・フム」出品作



i. 1977年「兵庫展」(兵庫県立近代美術館)会場風景(神戸新聞社提供)

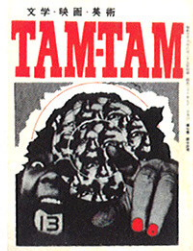


m. 1977年 三田市中央公民館での個展会場にて



n. 1979年「第9回丹波文化会館美術展」会場にて

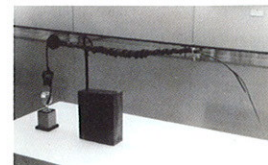
- 1934(昭和9) 大阪市で生まれる(2/25)、本名は嘉事(よしふさ)
- 1944(昭和19) 兵庫県三田市藍本(当時の有馬郡藍村)へ疎開
- 1950(昭和25) 大阪製図学校(現在の大阪工業技術専門学校)機械製図科卒業
- 1954(昭和29) 「第5回西宮市展」で教育委員会賞1席受賞(第6回は西宮市長賞、第7回は教育委員会賞2席受賞)
- 1955(昭和30) 「東山嘉事洋画展覧会」(三田市公民館) → a.
- 1956(昭和31) 中央美術学園油絵科卒業(通信教育)、中央美術協会会員となる  
萬国観光株式会社(キャバレーメトロ)宣伝部入社  
大森長太郎、岡谷巖と「ガン・グループ」を結成、第1回展を川西市公会堂で開催 → b.  
「第9回関西行動展」でマロニエ賞受賞、大阪市浪速区へ転居
- 1957(昭和32) 個展(白鳳画廊・大阪市) → c.
- 1958(昭和33) 片山昭弘、久保晃らの制作者集団「極」に参加  
株式会社日新デザイン課に入社、ディスプレイデザインに従事する  
個展(大阪画廊)
- 1960(昭和35) 東京へ転勤となり、小金井市へ転居
- 1961(昭和36) タム・タム芸術集団同人となり、同人雑誌「TAMTAM」第13号(7月)の表紙、挿絵を担当し、漫画を発表する → d.
- 1962(昭和37) タム・タム芸術集団の同人雑誌「総合芸術」6月号の表紙、挿絵を担当し、漫画を発表、附録として「フィルム・ボエムNo1 アンソロジー」を発行 → e.  
(以後、1966年の第24号まで、表紙、挿絵、漫画などで参加)  
タム・タム芸術集団を代表して「毎日グラフ」誌上で大江健三郎と対談 → f.
- 1964(昭和39) 中央美術学園ディスプレイ科講師となる(1968年まで)  
「第1回フィルム・アンデパンダン」に「鎖魂曲線巻」(モノクロ16mm、8分)を出品(新宿紀伊國屋ホール)  
漫画集「鎖魂曲線巻」(A5版、30ページ)出版
- 1966(昭和41) 有楽町数寄屋橋公園にてハプニングを行い、その模様がテレビ放映される  
株式会社日新の企画部係長職を辞し、ディスプレイデザイナー、イラストレーターとして独立  
「第1回フィルム・パーティ」に「ラバータッチミー」(カラー・アニメーション8mm)を出品(新宿日立レディス・ホール)
- 1968(昭和43) 月刊誌「中美」(中央美術学園発行)に漫画「ウォー」を1年間連載 → g.  
三田市藍本へ転居、「フムフムの園」シリーズを開始する  
「中央美術協会展」に出品(以後、1978年頃まで出品を続ける) → h.
- 1971(昭和46) 「第1回兵庫県美術祭」に招待出品(兵庫県立近代美術館、第2~4回、8回展も) → i.  
「兵庫県展」で佳作を受賞(兵庫県立近代美術館、1972、74年入選、1982年佳作)
- 1972(昭和47) 国立療養所兵庫中央病院の「たけのご学級」で美術を教える(2005年まで)
- 1974(昭和49) 個展「東山カジ王国フム・フム」(大阪画廊) → j.  
高知県の文芸誌「POEM」の表紙を担当する(短期間の中断を経ながら1992年まで) → k.
- 1975(昭和50) 三田市四ツ辻の正山窯で作陶を始める
- 1977(昭和52) 「兵庫県展」彫塑部門で近代美術館賞を受賞 → l.  
個展(三田市中央公民館) → m.  
北田玲一郎著「贗札と鹿鳴館」(新日本文学会出版部)の装丁を担当する
- 1978(昭和53) 文芸誌「POEM」の表紙作品で第3回文芸賞を受賞
- 1979(昭和54) 「第9回丹波文化会館美術展」で美術展賞を受賞 → n.
- 1980(昭和55) 「第3回ジャパンエンバ美術コンクール」入選(第8回も)  
「兵庫県展」に「黒いパンドラの箱」を招待出品  
「第1回三田市美術展」彫塑の部で奨励賞、工芸の部で三田市文化協会会長賞受賞(三田市中央公民館、以後、実行委員などの立場で出品を続ける)
- 1981(昭和56) 「兵庫現代美術展一海一」に招待出品(兵庫県立近代美術館、1985年) → o.  
三田市立長坂中学校に陶壁画《若樹の詩》を制作  
「第8回小野市美術展」絵画の部で文化協会賞、彫塑・工芸の部で教育長賞受賞(第10回は小野文化協会賞受賞)
- 1982(昭和57) 画集「POEM ANTHOLOGY」を出版  
個展「泥吐」(ギャラリー文林・西脇市)
- 1983(昭和58) 三田市文化協会会長を務める(1984年まで)  
「第7回日本陶芸展」前衛部門に出品(第10、11回も)
- 1984(昭和59) 「姫路現代美術展一位置展」に参加(姫路市立美術館)  
個展(画廊コウヨウ・箕面市)
- 1985(昭和60) 個展「フム・フム／あく・あく」(西脇市岡之山美術館アトリエ、1994、2002年)  
個展「東山嘉事フム・フム展」(高知市中央公民館、9/17-9/22)  
「第36回西宮市展」で優秀賞、西宮市議会議長賞受賞(第39回も優秀賞受賞)
- 1986(昭和61) 「第1回八木一夫賞現代陶芸展」で大賞を受賞、作品が読売新聞社より京都国立近代美術館に寄贈される → p.



d. 1961年 東山嘉事がデザインした「TAMTAM」第13号表紙



k. 1974年 東山嘉事がデザインした「POEM」第13号



o. 1985年《一声明一「空」への旋律》「兵庫現代美術展一音楽一」出品作



p. 1986年《炭化風景シリーズNo.12》(京都国立近代美術館所蔵)



- 1987 (昭和62) 個展(画廊ぶらんしゅ・池田市、1992、94、96年) → q.
- 1988 (昭和63) 個展「奇妙な人間群像-羅漢七変化」(芦屋アートクラフト・芦屋市)  
「第8回天展」に出品(第9、11、13回) → r.
- 1989 (平成元) 「神戸具象彫刻大賞'89」展で神戸市市制100周年記念賞を受賞 → s.  
「六甲アイランドCITY彫刻展」で優秀賞を受賞  
第1回三田市文化賞受賞
- 1990 (平成2) 個展「東山嘉事・新春小遊展」(赤穂ロイヤルホテル)  
「第1回三田市文化賞受賞記念 東山嘉事展」(三田市民ギャラリー) → t.  
「地球のゴミでアートする」展に参加(1994年まで毎年)  
姫路日ノ本短期大学で非常勤講師として美術を教える(2005年6月まで)  
「'90兵庫の美術家」に招待出品(兵庫県立近代美術館、1999年) → u.  
「西宮市展最優秀賞・優秀賞受賞作家展」に招待出品(西宮市立市民ギャラリー)  
兵庫県立有馬富士自然公園に石彫モニュメント《鳥虫戯石》を設置
- 1991 (平成3) 個展「渾沌曼陀羅化」(海文堂ギャラリー・神戸市、1994、97年) → v.  
河内長野市松ヶ原公園に石彫モニュメントを設置  
「第14回現代日本彫刻展」に《宇部讃歌 鳥虫戯石》を出品(宇部市)
- 1992 (平成4) 個展(Space PaPiPuPePo・芦屋市、1994年)  
「現代陶芸の系譜」展に《生体-螺旋》などを招待出品(姫路市立美術館)  
六甲アイランド(神戸市)に石彫《 TENTウ虫と...》を設置  
「SANDA造形展」に参加(三田市民会館、1999年)
- 1993 (平成5) 「フジサンケイ・ビエンナーレ現代国際彫刻展」コンクール部門に出品(美ヶ原高原美術館)  
赤穂市磯工業団地公園に石彫《宇宙へのメッセージ》を設置 → w.  
姫路港飾磨港区飾磨埠頭・飾万津臨港公園に石彫モニュメント《灯の雫と遊ぶ》を設置
- 1994 (平成6) 「高柳の里・彫刻造形展」に出品(養父郡八鹿町)  
三田市岩倉公会堂・五葉院に石彫を設置  
池田駅前公園(池田市)に石彫《鳥虫戯石》を設置  
あざご芸術の森(朝来町)に石彫《太陽キラキラ穴ぼこてんでん》を設置
- 1995 (平成7) 紙によるフムフム族のオブジェの制作を始める  
「半どんの会」文化功労賞受賞  
兵庫県教職員組合文化賞受賞  
書写山慈悲の鐘広場(姫路市)に石彫《風ノ歌がキコヘマスカ》を設置  
知的障害者更生施設ひふみ園(神戸市)で絵画指導を行う(2004年まで)
- 1996 (平成8) 神戸市立神戸諏訪山小学校に石彫《げんきくん》を設置  
「制作者集団『極』」回顧展に出品(兵庫県立近代美術館)
- 1997 (平成9) 一宮町郡家公園(兵庫県)に石彫《くうみのメッセージ》を設置  
兵庫県立柏原高等学校に石彫《未来へのメッセージ 共生》を設置 → x.  
姫路日ノ本短期大学に石彫《遊》を設置  
5人展「立体五人囃」(ギャラリーけやき・三田市、1999年)  
「第1回西脇市サムホール大賞展」に出品(岡之山美術館、第5回)
- 1998 (平成10) 個展「泥を吐く...」(三田市立陶芸館)  
自作詩によるライブを始める  
個展「不夢不無あしゅんで遊ぶ」(あしゅん・神戸市、以後、2003まで毎年)  
おっとと2人展「脱芸術的見世物展 おっと×フム・フム=?」(ギャラリーけやき)
- 1999 (平成11) 小幡正雄の個展を企画(ギャラリーけやき)  
「人人展」に出品(東京都美術館、2000、01、04年)  
個展「不夢不無の世界」(ほんまち創人村・三田市)  
「'99西播磨彫刻シンポジウムin AIOI」に参加、  
相生市中央公園(兵庫県)に石彫《ボカボカ・チンチン(ゆっくり・かんぱい)》を設置
- 2000 (平成12) 「震災と美術」展に招待出品(兵庫県立近代美術館)  
個展(ギャラリー伽楼里・三田市、2001年)  
個展(アクサンギャラリー・大阪市)  
小幡正雄と2人展(ギャラリー・カフェ・ナフシャ・神戸市)  
仙人館(安芸市)地下室に壁画を設置
- 2001 (平成13) コラージュ作品「週刊芸術」、「月刊習慣芸術」の発行を始める(2003年まで) → y.  
三田市立藍中学校に石彫モニュメント《あい遊ぼう》を設置  
三田青空美術場・ほんまちアートフィールド2001」に参加(2002、03、04年)  
「朝来2001野外彫刻展in多々良木2001」に出品
- 2002 (平成14) 個展「週刊芸術」(ギャラリー・デン・大阪市)  
個展「週刊芸術」(北野Pocket美術函・神戸市)  
「六甲アイランド現代美術野外展」に出品(六甲アイランド・神戸市)  
おっとと2人展「盗賊の極意 フムフムvsおっと」  
(ギャラリー・サーカス・サーカス・神戸市)
- 2003 (平成15) 「東山嘉事とひふみ園の画家たち」展を企画(あしゅん)  
個展(ギャラリーけやき)  
加西市北条町駅前ポケット広場に石彫を設置
- 2004 (平成16) 個展(スペース草・豊中市)  
曾我孝司と2人展(ギャラリーけやき、9/7-9/19)、生前最後の展覧会となる → z.
- 2006 (平成18) 兵庫県文化賞受賞  
三田市で没(12/14)
- 2007 (平成19) 追悼展「東山嘉事 不夢不無無限無経偶」(ギャラリー島田)  
追悼展「不夢不無曼荼羅-東山嘉事の世界展」(東山嘉事アトリエなど三田市内4ヶ所)  
「不夢不無草紙」出版(不夢不無草紙刊行委員会)
- 2008 (平成20) 「リハビリターレと嘉事さんのアトリエの石」展(ギャラリー集芸館・篠山市)

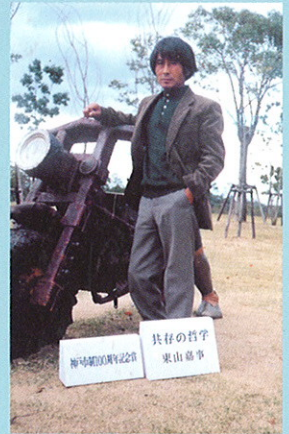
r. 1993年「非共存の哲学」  
「天理ビエンナーレ'93(第13回天展)」奨励賞受賞作



q. 1992年 画廊ぶらんしゅでの個展「非共存の哲学」会場風景



t. 1990年  
「第1回三田市文化賞受賞記念  
東山嘉事展」  
(三田市民ギャラリー) 会場風景



s. 1989年  
「神戸具象彫刻大賞'89」展会場にて  
受賞作「共存の哲学 東山嘉事」とともに



u. 1999年「'99兵庫の美術家」  
(兵庫県立近代美術館) 会場風景



v. 1994年 海文堂ギャラリーでの個展「狂宴」  
会場風景



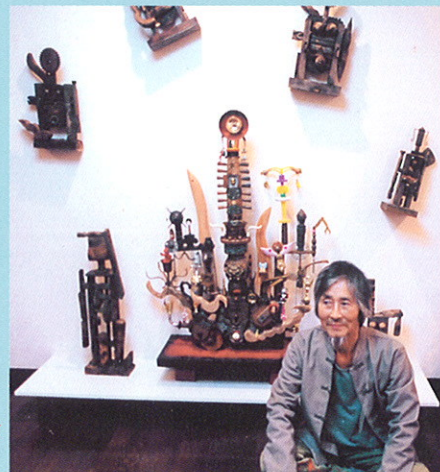
x. 1997年  
《未来へのメッセージ 共生》  
(兵庫県立柏原高等学校)



w. 1993年《宇宙へのメッセージ》  
(赤穂市磯工業団地公園)



y. 2001年「月刊習慣芸術」第1号



z. 2004年  
ギャラリーけやきでの  
曾我孝司と2人展会場にて



2006年12月に72歳で逝去した東山嘉事は、兵庫県三田市を拠点として、絵画や立体という枠におさまらない幅広い芸術活動を展開した美術家である。彼のユニークで批判精神に満ちた活動と温厚で魅力的な人柄は、多くの美術家や美術愛好家たちを引きつける求心力をもっていた。

1934(昭和9)年に大阪市で生まれた東山嘉事は、疎開先の三田市で20歳の頃から美術活動を始めた。1960(昭和35)年に東京に移り住むと、前衛的な芸術グループ「タム・タム芸術集団」に所属し、漫画や映像作品などを発表した。1968(昭和43)年には三田市藍本に戻り、その後は関西を中心に多彩な活動を繰り広げた。その活躍ぶりには、第1回「八木一夫賞」現代陶芸展大賞受賞、第1回三田市文化賞受賞、平成18年度兵庫県文化賞受賞など、数多くの受賞歴にも表れている。

東山嘉事の特質は、その長い芸術活動において、ありとあらゆる素材や技法に取り組んだことである。絵画、漫画、デザイン、陶芸、石彫モニュメント、木彫、ジャンク・アート、オブジェ、パフォーマンスなど、彼の活動の幅広さは本展の出品作からも明らかだ。その多様さのなかでも、東山は一貫して社会に対する批判的な視線、時代への警鐘を忘れることがなかった。そしてそれを、時にはグロテスクに、そして時にはほのぼのとしたタッチで表現し続けたのである。常にそこには、この芸術家に固有のユーモラスな造型感覚が示されている。

公立美術館では初めての回顧展となるこの展覧会は、没後のアトリエに遺された作品を中心に、貴重な写真や映像を交えて、多方面に及ぶ東山嘉事の仕事を紹介するものだ。きらびやかに展開する絵巻物のような作品群のなかに、独特の笑いと毒を含んだ東山嘉事の生き様を感じ取ることができるだろう。(服部正／当館学芸員)



会場風景

## 東山嘉事の言葉

太陽よ!空の高みから落ちこちろ。  
さあ、私たちとあなたたち共に、これから歴史をめぐる王をえらぼう。  
太陽を作ろう。  
グラマーな太陽を作り、バストで勝負してバトンタッチといこう。  
そして、ある夕暮に静かに埋葬されるおまえの為に鐘を鳴らそう。  
——『鎮魂曲絵巻』(1964年)より

本来 芸術の世界には鬼が住んでいるのだ。イヤ、鬼の住み家が芸術の中に有るのだ。  
そして ドノユウナコトがあっても「今」が有りドキュメンタルな目が必要である。  
ガレキの街から生まれてくる何か、死者への思いが熱い今、何を、それでいて**ビドウ**ともせぬモノ、  
なぐさめにキレイな花を描いては失礼だと思ふのは間違いだろうか…  
—— 1995年3月25日のメモより

「人間の生きる事そのものが毒だ」と喝破する人がいる。その説や心地良し。  
物知りげな解説者が多い中で、この説には濃厚なる闇が立ち込めていて私は好きだ。  
近代文明の通り過ぎた跡には闇が消滅してゆく。  
人間にとって“存在してはいけないもの”が消されてゆく。  
私たちは、その暴力の通過した跡を「文明開化」と教えられ、コレガ文化ダと美味しくちょうだいしてきた。  
そして文明の利息だと思ひ込み、貪り続けているようだ。  
——「闇と毒 そして神話」『神戸新聞』(1998年11月29日)より

三田に落ち着いて、制作を始めて十数年になります。  
仕事が絵画から陶芸、彫刻へと変わりました。  
自分でもよくわからないのですが、  
風土が私を変えたといけません。  
三田で出会えた師は「自然」だった様です。  
これは私にとって、かけがえのない体験です。  
——「第1回三田市文化賞受賞記念 東山嘉事展」  
(三田市民ギャラリー、1990年)パンフレットより

最近の作品はユーモアがない。  
なんか笑うとまずいような感じがして。  
遊ぶのが仕事なのは芸術家だけなのに、  
最近の作家はすごく真面目になってきて。  
だからもっとふざけていいと思うなあ。  
ふざけるのが芸術家の特権なのに。  
——「広報あさご」No.433(1995年10月)の  
インタビューより



東山嘉事のアトリエ(兵庫県三田市)  
典型的な庭つき農家のたたずまいをもつこのアトリエは、1980年に自宅を改造して作られたものです。1985年からは「芸術村フム・フム」と名付けて自作を公開するとともに、近隣に住む芸術家たちのたまり場ともなっていました。(2008年10月撮影)



2008年度コレクション展Ⅲ パート2

# 東山嘉事

ヒガシヤマ カジ

風刺とユーモア！カジさんの不夢不無ワールドへようこそ

兵庫県三田市を拠点に、絵画や立体という概念にとどまらない幅広い芸術活動を展開した東山嘉事（〒934-2006）の仕事を紹介する公立美術館では初めての回顧展。

平成20年11月22日〔土〕—平成21年3月15日〔日〕



「フム・フム・シリーズ」より



《共存の哲学》平成元（1989）年

休館日 月曜日（月曜日が祝日の場合開館し、翌火曜日休館）  
年未年始 12/24～1/1  
開館時間 午前10時～午後6時 特別展開催中の金・土曜日は夜間開館午後8時まで  
（入場はいずれも閉館の30分前まで）  
協賛 財団法人みなと銀行文化振興財団

2月21日（土）午後2時より 座談会「カジさんの思い出を語る」開催！

KAJI HIGASHIYAMA RETROSPECTIVE

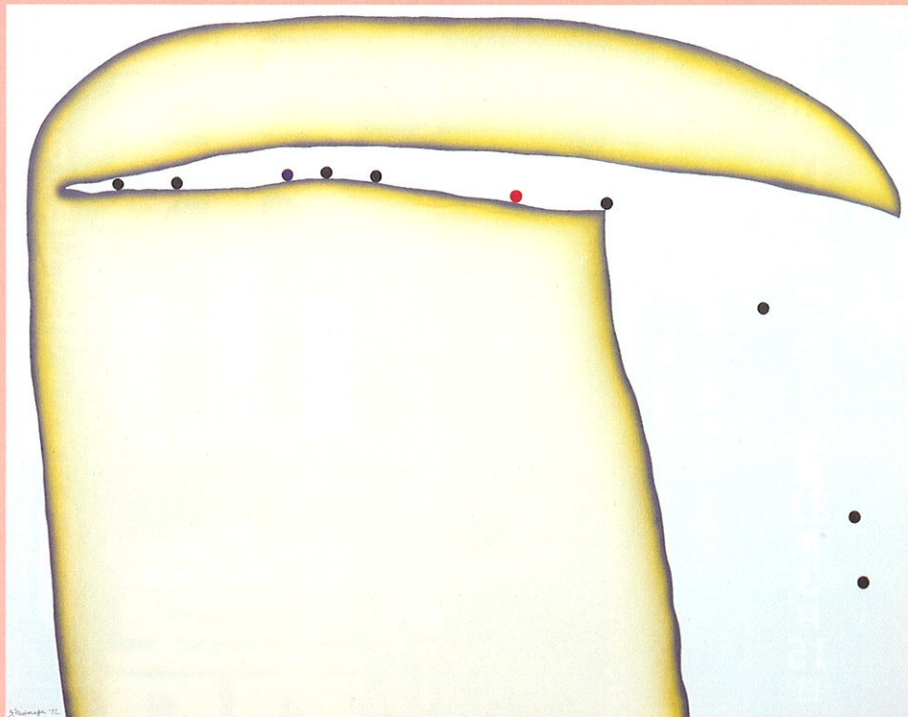


親子で楽しむアート

平成20年11月22日「土」—平成21年3月15日「日」

# 現代美術の世界へようこそ！

本展のテーマは「親子で楽しむ現代美術」。現代美術の様々な魅力に迫ります。展覧会では美術を楽しむための4つのヒントを提案。このヒントを手がかりに作品の様々な表情に触れていただけるように構成しました。親子で、友人同士であれこれ語り合いつつ気軽に美術を眺めてみてはいかがでしょうか。



元永定正《ボンボンボン》昭和47（1972）年



## 関連事業

### ■ 学芸員によるギャラリートーク

12月6日（土）、1月10日（土）、2月28日（土）  
いずれも午後3時から（約30分）

### ■ 学芸員によるレクチャー

「1960-70年代美術を語る」出原均（当館学芸員）  
1回目「60年代美術」12月13日（土）午後3時～4時  
2回目「70年代美術」2月7日（土）午後3時～4時

### ■ 東山嘉事展 座談会「カジさんの思い出を語る」

2月21日（土）午後2時から  
出演：島田誠（ギャラリー島田）、福永祥子（詩人）、  
吉川周而（陶芸家）、WAKKUN（イラストレーター・  
絵本作家）〈予定〉

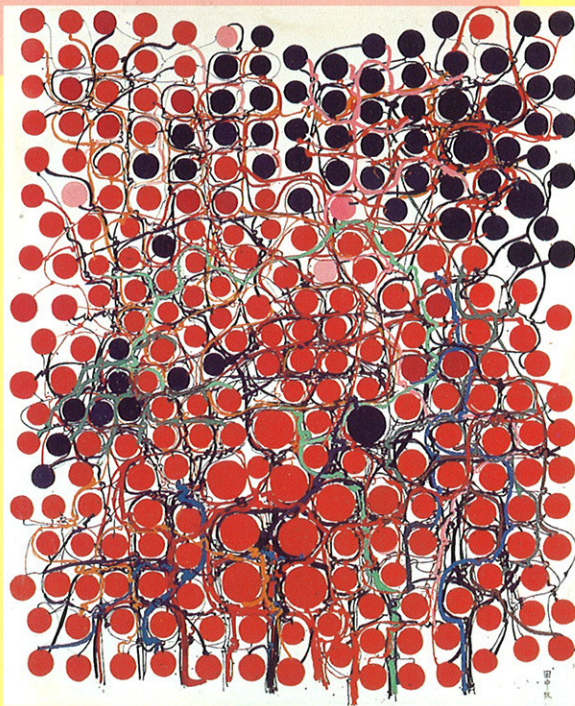
### ■ ミュージアム・ボランティアによるガイドツアー

会期中の金・土・日曜日 いずれも午後1時から（約45分）

### ■ こどものイベント 親子で美術館探検リターンズ

12月20日（土）午後1時30分～3時30分  
12月21日（日）午前10時30分～12時30分  
※両日とも内容は同じです。

お問合せ TEL 078-262-0908 [こどものイベント係]



田中敦子《作品》昭和33（1958）年

## 2008年度コレクション展Ⅲ パート3

小磯良平記念室・金山平三記念室

神戸ゆかりの洋画の巨匠、  
小磯良平と金山平三の魅力を紹介。



## 観覧料金

一般：500円（400円）（300円） 大・高生：400円（320円）（240円）  
中・小生：250円（200円）（150円）

※（ ）内は20名以上の団体割引料金、（ ）内は特別展セット料金  
※兵庫県内の中・小生はココロカードの提示により無料  
※障害のある方とその介護の方（1名）は半額  
※兵庫県内在住の65歳以上の方は一般料金の半額



## 交通案内

阪神岩屋駅から南に徒歩約8分  
JR神戸線灘駅から南に徒歩約10分  
阪急神戸線王子公園駅から南西に徒歩約20分  
神戸市バス・阪神バス「県立美術館前」下車すぐ  
地下駐車場（乗用車80台収容・有料）

\*ご来館はなるべく電車・バスをご利用ください。  
\*団体バスでお越しの場合は、バス待機所のご予約をお願いいたします。



神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1（HAT神戸内）  
TEL：078-262-0901（代）  
<http://www.artm.pref.hyogo.jp>



森村泰昌《批評とその愛人4》平成元（1989）年